

2021年3月期第1四半期 決算説明会 Q&Aサマリー

Q1: 計測事業の受注がFY20Q1で220億円、前年同期比12%成長した主な理由は何か？

A1: 5G端末開発向け需要やデータセンター向け測定器が好調であったことに加え、FY19Q4での受注延伸分の取り込みが出来たことが主な理由です。

Q2: FY20Q1でアジアの売上が増加した主な理由は何か？

A2: 新型コロナウイルスの感染状況が比較的鎮静化している国が多いこと。またアジア各国では、技術的課題の少ないSub6GHzを中心に5G商用化が進んでおり、計測器需要が順調に拡大しているためです。

Q3: FY20Q1で獲得したデータセンター需要とは、具体的にはどのようなものなのか？

A3: 光モジュールやデバイスの開発・製造におけるインターフェースの動作確認等のための測定需要です。

Q4: FY20Q2以降の見通しに対して、新型コロナウイルス感染拡大の影響をどの程度織込んでいるのか？

A4: 新型コロナウイルスが上期中に収束することを前提に通期の業績見通しを出していますが、その前提に現時点では変更はありません。新型コロナウイルスの先行きは依然として不透明であり、引き続き注視して行きたいと考えています。

Q5: 5Gモバイル計測市場の規模に変化はないか？

A5: FY19第3四半期の説明会で示した計測市場の規模（LTEの9割程度）に変更はありません。

Q6: 新型コロナウイルスによるPQA事業（営業活動やサプライチェーンなど）への影響はどうか？

A6: 日本においては、6月には顧客訪問ができるようになりましたが、7月に入ると第2波懸念で顧客訪問に制限が出始めています。サプライチェーンにおいては、現時点では問題はありません。